



特定非営利活動法人



<http://nepal-mika.jp>

平成28年 新年号 NO.55

ネパール・ミカの会

平成28年1月1日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「元正啓祚(がんしょうけいそ)

創立 20 周年を迎えるにあたり

万物(ばんもつ)咸新(かんしん)」

理事長 齋藤 謹也

副理事長 大谷 安宏

お正月は幸せを開き、全ての物は新鮮であります、という意味の言葉ですが、元旦を迎えますと、昨日までとは全く違う新鮮さを感じますね。

さあ、今年はどうしようか、と考えますが、日々を丁寧に生きることに心がけて参りましょう。

さて、昨春、ネパールに大地震がありました。私共、昨日の続きは今日といったぬるま湯が、天地によってひっくり返されました。日々を願いと祈りを忘れず生きたいと思います。新しい一歩をすすめてまいりましょう。

ところで、平成二十八年は申(さる)年。申年生まれは機敏にして進取の気性に富み、世話好きだそうです。利発で愛嬌があるように、多くの人に愛されるミカの会であればなあと思います。

猿といえば、「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿です。何事にも無関心をよそおえと言っているようですが、本来の意味は「人の欠点を見ない、人の悪口を聞かない、人の悪口を言わない」ということですから、改めて本年が良い年になるように、足並みを合わせ、力を合わせましょう。

2016年新年おめでとうございます。

今年はネパール・ミカの会創立 20 周年の節目の年を迎えます。“ ゆっくりと ささやかに 心を込めて 手から手へ ” を会のモットーにこの 20 年間の教育支援活動実績は 15 校に教室・職員室・図書室 55 室、2 図書館、校舎修復 11 校、制服支援 1450 着、図書支援 10000 冊、10 + 2 奨学金 48 名ほか備品、設備の支援や現地教員との懇談交流などを着実に継続した実施は現地生徒たちの就学率、学習能力の向上に少なからずの効果をもたらしたと確信しています。

これも会員の皆さんの各所に於いてバサー出店、団体助成金、個人・団体支援金のご協力の賜ものと感謝と現地でご尽力頂いたラマ理事に改めて感謝したいと思います。

昨年 4 月のネパール大震災によるカトマンズ周辺の大被害の報道にラマ理事一家の安否確認の電話、メールを何通も送りながらも通じず不安を募らせていたが午後 8 時『ラマです。今、家族と会いました。皆無事です。いろいろあるけれど皆元気です。皆さんに伝えて下さい。頑張ります』ルンビニから幸運に帰宅できたラマ理事の電話に安堵したことを今でも記憶として残ります。

大震災被災者支援に急遽、募金活動や街頭募金を展開し多くの個人、企業・団体からの温かいご協力により被災地域の学校、集落にゴビンタ氏、ラマ理事を介して支援活動を続けていますが今後も支援の継続が必要と考えます。

ルンビニ地区の建設支援校の被害は軽微であり、完成の遅れているサラソティー校建設も外装・塗装を残すのみの状況にあり一日も早い落成を願います。

2008 年王政を廃止し連邦民主共和制に移行し制憲議会により 8 年間に要し昨年 9 月新憲法が制定され 7 州が設定に対しマデシエリヤ 2 州の追加提案等の政治混乱でインド国境の閉鎖等により極端な生活物資不足が市民生活の困窮が続いている。

大震災被害、インド国境閉鎖などネパールにとって大変な一年であったが着実な復興と早期政治安定化を願いつつ、創立 20 周年を期に会の教育支援の今後のあり方について協議対応が必要かと考えます。今年も皆様方の益々のご健勝を祈念します。

4ヶ月経ってもまだテントで過ごしています。



協力頂いたネパール現地のボランティアの皆さんです。

《NPO 法人ネパール・ミカの会による支援活動報告その2》



2015.07.13 バルボダ高等学校

現地ボランティアの皆様のお陰でカトマンズから30分ぐらい東にあるヴィムドゥンガと言う村の学校に支援を届けることができました。150名の学生が通っているバルボダ高等学校に支援物資を配布しました。スポーツ用品、文房具、水のタンク、傘や靴そしておやつ、ジュースなどを配りました。

2015.07.29 バイシュナビ高校学校

バイシュナビ高等学校は1960年に設立されています。学生数は125人。
今回の大震災で学校の建物は余り破損していないが、学生のほぼすべての住宅が被害を受けました。彼らが学校へ行く為のカバン、文房具、靴などがなくて困っていました。
現地のボランティアの手を借りて小学1年から5年までの子供70人にカバン、靴、弁当箱、ノート、鉛筆、鉛筆削り、消しゴム50人にボールペンそして100人に傘、125人(全員)にプラスチック水筒、おやつとして、インスタントラーメン、ビスケットとジュースを届けました。またスポーツ用具も届けました。



2015.08.25

カンティイショリラジャラクシミ高校学校

この学校は世界遺産敷地に位置し、65年の歴史を持つ学校です。この学校は1950年に設立されています。

今回の大震災で学校の建物は全てクラックが入り殆ど使えない状況です。その為に仮設教室を作って授業をやっているそうです。授業をする為にホワイトボード、マーカー、文房具とスポーツ用品がなくて困っていました。そこで現地ボランティアグループの協力を得て教育支援物資を届ける事が出来ました。

2015.09.02 シリー・シラディビ小学校

児童数は57人です。靴・折りたたみ傘・鉛筆・消しゴム・ジュース・お菓子などを支給しました。ジュースは現地で25ルピー程ですが子供たちにすれば月に一度飲めるかどうかの嬉しい事だそうです。又校長先生の要望だった折りたたみ傘は、贈呈後の大雨で児童皆で開封、さっそく使っていました。
この小学校の被害はそれほどでもないのですが、児童たちの家の被害は計り知れないそうです。
断続的に降り続く雨を心配しながら、近くの支援校に向かいます。雨が続きと帰れなくなりそうな山道です。





2015.06.12 シリー・カリカサルン高校

比較的交通量の多いメインストリートからすぐです。訪問しやすい学校と言えます。生徒数は 491 人・小学生 125 人。全ての学生さんに支給したので予算は多めになってしまいました。リュックサック・折りたたみ傘・鉛筆・消しゴム・鉛筆削り、ジュースなどです。

贈呈式の最中に突然土砂降りの雨。教室内で支援品をパッキングし、児童たちに取りに来てもらう事にしました。それにしても激しい雨で校庭はあっという間に池になってしまいました。幸い支援品の中に折り畳み傘があるのでほぼ全員がその傘を開いて、下校しました。

2015.09.04 ビムドゥンガ中学校

生徒数は約 100 名。カトマンドゥ郊外の山の中、車で悪路を約 2 時間。車を下りて約 15 分、支援の品々を歩いて運びます。父母や先生・生徒が手伝ってくれます。

全員整列して、国歌で出迎えてくれました。比較的しっかりした校舎が 2 棟ありますが、1 棟は耐震検査の結果使用禁止となっています。今回は靴・鞆・筆箱セット・ノート・鉛筆・消しゴム・ホワイトボードマーカー・インク・スポーツ用品・お菓子・ジュースなどを支援しました。



2015.09.04 アルノダヤ中学校

アルノダヤ中学校は世界遺産カトマンドゥ旧王宮から歩いて 4-5 分のところになります。

校舎はクラックが入って使えない状況で、違う学校の教室を借りてクラス分けにして授業やっているそうです。学生は 100 人ぐらい通っています。

下記の物を支援・配布しました。水筒、弁当箱、ノート、鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、ボールペン、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、インク、制服、スポーツ用品、お菓子、ジュースなどです。

カトマンドゥ王宮広場と郊外のサクーの町です。どちらも 4 ヶ月経過したとは思えない惨状です。



2015年も世界は波乱に満ち、落ち着かない年でした。明けて2016年はルンビニの地に仲間が初めて訪れ、小さな支援を始め、数えれば今年でちょうど20年の節目の年となります。この20年、NGOからNPOに進化し、会員も増え、国内・海外で種々の事業をこなして活動が充実し、他から認められ評価される姿になってきました。

歳月を重ね、誰も逃げられない加齢を日ごとに更新し、今では高齢会員の集団の様子を呈し、よくぞ色々なストレスに耐えながら、ここまでやってこられたと我ながら感心します。

20年間の活動の中で、残念ながら、天命尽き、すでにこの世を去った会員の方々のお元気だった頃の姿を少し述べさせていただきます。

片岡孟さんの思い出

片岡さんは寡黙な人でした。高齢ながらネパールを楽しんで、いつも静かに皆と行動を共にし頑張っていました。チトワンでのサファリでは、象の背中から大事な財布を落としてしまい、後ろをゆく象が見つめて鼻で吸い上げ、黒革財布に象の鼻の孔がくつきりと跡がつき、象のよだれと共に無事回収できた、という出来事がありました。また、あまりの暑さに熱中症のごとき体調となり元気をなくしたので、急いでペットボトルの水を頭からジャージャーかけ、ひと休みしたらなんとか元気を取り戻す、といったこともありました。日常は白色の軽トラックで鶴間から例会によく参加し、ご自身の年金をこっそりとミカの会に長期にわたり入金していただきました。ありがとうございました、片岡さん。

後藤栄さんの思い出

後藤さんは身体にご不自由な障害をお持ちでしたが、高齢に関わらず、体調のよい時は例会に必ず参加していただきました。物静かな笑顔で皆と協調し、会員としての仕事を十分に全うしていただきました。ご自宅の成瀬からよく出席し本当にご苦労さまでした。

斉藤禮子さんの思い出

斉藤理事長ご一家の一員で何でもできるスーパーウーマンで、写真の個展を開催するかどうか尻込みする私に「おやりなさいよ」と言ってくださり、私にとって一生に一度の写真展開催となった思い出があります。何から何までお世話をいただいた恩人の一人でした。書道や文化に通じて色々な才能をお持ちで、まだまだご活躍の時に病に倒れ、本当に残念な方を失ったという思いでいっぱいです。

八木健吉さんの思い出

歴史に造詣が深く、この地区のことをよくご存じで、相模原地区の歴史研究会に属していました。とてもユーモラスな一面もあり、一度、方角のことが話題になったときに、買った磁石が北と南がわからないといい、壊れているのでどうしても方向が違うと言い張り、店に交換に行くと言って聞かなかった。自分の方向感覚が間違っているだけなのに。また、チトワンのロッジの囲炉裏で食事の時に対面の人にビールを注ぎたくて、弾みで囲炉裏を飛び越えて反対側まで飛んでいってしまった。火がついていなくてよかった。以来、八木さんは「火渡りじいさん」の命名がされ、みんなに愛されました。

20年が経った今、会の歴史上にも様々な人が入り交じり、残念ながら天上の人となられた人々との交流がなつかしく思い出されます。たぶん今は天国から見守ってくださっていることと信じます。今を生きる会員の皆様は、益々、加齢の刻を過ぎ、逃れられないゴールに向け進んでいきますが、ネパール・ミカの会のお一層の発展と向上することを願って止みません。ミカの会・天国支部の皆様、下界をどうぞお導きいただき、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

地震発生から約4ヶ月のカトマンドゥウに行ってきました。いつも待たされる入国もスムーズ、観光客も少ないです。特に日本人は見かけません。仮設のテント生活を続ける人も多いのですが、町の活気は相変わらずでした。

4校の支援に同行して来ました。現地のボランティアの協力がなければ行けないような山間の学校、校舎が破損して仮設の学校、それでも子供たちの笑顔に会う事が出来ました。地震の復興はほとんど進んでいません。王宮広場などもがれきを片付けた程度で、郊外は全く手がついていないところが多いです。

帰国してすぐに、ネパール憲法公布。ところがインドの経済封鎖が始まってしまいます。もう4ヶ月の封鎖でガソリン、プロパン、医療品などの流通が壊滅。市民は被災した建物の木材で調理しています。観光客もいないので、経済活動も停滞しています。一日も早く回復しないと国民は本当に困難な生活を続ける事になります。祈るばかりです。

☆☆☆事務局便り☆☆☆ 西澤 忠

会報「夏号」以降理事会での話し合いは次の通りです。

◎7月4日(土)：①ネパール大震災支援募金・寄付金(以下募金)の状況報告及びこの活動を10月末まで継続する。②中間調査は現在の状況では難しいため中止する。③募金で子供達に必要なバッグ、文房具などを購入し手渡す。④ネパール・ミカの会創立20周年記念(H28年度)について。

◎8月25日(土)臨時理事会、9月19日(土)定例会との合同理事会

①加藤理事が「ネパール大震災調査及び支援」に9月初め急遽ネパールを訪問する。ルンビニ地区に行くことは治安情勢から難しいので、パドゥマカニヤ女子校及びカトマンドゥウ近郊の学校の状況・支援調査並びに観光資源の被災・安全状況とラマ理事との打合せ、調整をして来ていただく。

②加藤理事の調査・支援状況について定例会出席者も交えた理事会で詳細報告がされた。撮影してきた写真・説明から大変厳しい被災状況を再認識した。なお民芸品、バッグなども購入してきて頂いた。③ラマ理事との現地の状況など情報交換について報告があった。

◎11月7日(土)

①募金及び支援(支出)のまとめと今後の対応について。今後の支援活動はラマ理事と調整しながら進めていく。募金(第三次)活動は期限なしで継続する。②2015年度事業計画の実施状況について。現地支援は遅れているものの、その他バザー実施などはほぼ予定通り。③11月後半に予定していた教育支援の旅は現地治安状況等から来春(予定)に延期する。

☆☆☆事務局便り☆☆☆ 和田 泰子

これからの予定では、イベントは3月までありませんが、1月の定例会では、美味しいお菓子でもいただきながら、ミカの会のバザー出店の内容を皆さままで考えていきたいと思えます。ご参加、よろしくお願ひいたします。

(1月16日(土) 午後1時半よりこもれび堂にて)

☆☆☆編集後記☆☆☆ 加藤 誠一

大地震の復興もままならない時にインドの経済封鎖。現状では地震以上の悪影響を与えています。日本は暖冬と言われていますが、ネパールは相当冷え込んでいます。トタンの家やテントで過ごす人々の事を思うと心が痛みます。

一日も早い解決を祈るばかりです。ホームページで活動の様子やネパールの最新情報を発信していますので、ご覧になってください。